

# 朝日山だより

—令和2年 旭地区文化祭 出展作品—



「節分鬼」



「小物入れ」



「3月3日のお雛様」



「小物入れ」

## 社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホームあさひ

ヒューマンサポートタッチ

佐賀県東部発達障がい者支援センター結

〒841-0073 佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

(0942) 81-5409 (支援室)

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : [asahiyaama@grace.ocn.ne.jp](mailto:asahiyaama@grace.ocn.ne.jp)

## 『社会福祉事業の公共性』

あさひ会 理事長 古澤文雄

2016年、相模原市の福祉施設「やまゆり園」で想像を絶し、世間を揺るがす大事件が起こりました。事件の内容は、説明しなくても誰もが知っているもので、社会福祉事業を営むもの、従事するもののショックははかり知れないものでした。

あれから間もなく4年となりますが、今年1月8日やっと裁判が開かれる事になりました。

事件発生当時の新聞、テレビで犯人（容疑者）の事件の動機が報道されましたが、彼の思想、理念は身勝手、独断的で誰一人として容認する者はいないはずであり、私も許しがたい理由であると憤りは今も納まりません。

犯人の主張を裁判はどう判断し、どのような判決を下すのか興味深いものがあります。しかし、私はどんな判決が下されるかということに対してより、裁判において被害者の方のお名前が一人を除き匿名となっている事に心を痛めました。

この事を「ハンセン病」の汚名をかけられ長きにわたり「隔離」された方の身内親族が味わった事と同じ心境にあるのではないだろうかと思いました。社会の障壁を感じられているのだろうとも思いました。

「ハンセン病」と同じく、障がい者とその家族に対しても冷たい社会の視線、心ない偏見やいじめを予見するが故の決断だとすればとても悲しい事です。

私達、障がい者の支援をしていくものは、差別や意味ない偏見、いじめを社会から無くしていく事も発信していく事の必要性を痛感しています。

最後に、「やまゆり園」の事件の被害者の一人である美帆さん（19歳）のお母様の手



記から、美帆さんは、当施設入所後4ヶ月で事件に遭いました。下の名前だけでも覚えてもらいたいとして名前を出されたものです。

4ヶ月という期間の中で、何度か園を訪ねられたのでしょうか。「私がいなくなっても、美帆はこうして生きていけるんだ」と施設への信頼や期待がこめられている言葉として深く受け止めましたし、同時にお母様の24文字の言葉が福祉施設へのエールのように心に響きました。

## ～日中支援の現場から～

### 『A氏の支援を通して感じる事』

朝日山学園 支援係長 古川聖子

A氏はテレビやゲームに興味を持たれる方で、知識も非常に豊富です。特に、天気に関しては、毎日天気予報をチェックされ、今後の天候や気温の変化等を予測し、雨や雪などの場合は、「早く帰った方が良いよ！」等と相手に気遣って教えてくれる事も出来る、本来心の優しい方とスタッフも理解しています。

そんなA氏ですが、心配な事があると自身に余裕がなくなり、解消したい気持ちで一生懸命なんだろうと感じながらも、そういう状態の時は、口調も荒くなり、表情も硬く、顔が下がり



やすく、椅子に座った状態で、とにかくスタッフに自分の気持ちを分かってもらいたい事が優先してしまい、作業活動のアプローチに拒否をする事が多くなってしまいます。

その様な状態の時に、スタッフは、「A氏が気持ちに左右されずに、作業活動に入れるにはどういう支援ができるか？」と、検討し取り組んでいきました。

特に、朝日山学園に登園された直後は、A氏の気持ちの切り替えができずに気持ちが不安定になる傾向にあります。その様な時に、スタッフと椅

子に座って会話をすると、表情が強張り、うつむき傾向になり、否定的な発言につながりやすい為、登園の流れで体を動かせる機会を作っています。スタッフと園内歩行やキャッチボール等に取り組み、途切れる事を少なく「動」の動きを多く取り入れる事で、A氏の不安定な気持ちも表出しにくく、作業活動への切り替えがしやすいと、支援を通じて気づきました。

また、その際に一人のスタッフが長い時間対応するのではなく、様子を見て交代していく環境も作る様に心がけています。A氏と関わる際の会話のやりとりも、各スタッフで異なります。スタッフが入り代わる変化を取り入れる事で、新たな会話が生まれ、気持ちの切り替えに繋がるという考え方からです。

このように、登園されてからのA氏の状態を安定させることが出来れば、その後の作業活動の促しも受け入れやすい傾向から、細かいスタッフの観察力、支援力が試されています。



ただ、A氏の心配の度合いによっては、同じような支援をしても反応の違いはあります。どうしても、活動に参加ができない時もありました。その際は、必要以上に深追いせず、午後の活動参加に着目をおき、活動を受け入れられる様な状態作りを目指してチームで支援をしています。

支援には、やはりスタッフの観察力、連携が欠かせません。今のA氏がどのような状態なのか観察（表情・姿勢・目の動き・発言）し、対応を代えるタイミング、交代の際のスタッフ同士の目配せ、会話の引き出し方等、細かい配慮が必要です。A氏の支援をしていく中で、スタッフ間の情報を共有し、どのような支援が必要か同じ視点で考えることができ、連携しながら支援が出来ていると感じています。

A氏に限らずですが、私達は利用者の方々に関わり、実践の中から学ばせて頂く事が多いです。スタッフは利用者の方々を中心に、関りの中で感

じた事を大事にしながら、良い支援ができた時は一緒に喜び、上手くいかなかった時は再度検討する。その繰り返しの中から、チームとして支援力を高め、支援者としても成長していけたらと思っています。

## ～朝日山学園「分場」スタート～

朝日山学園 生活支援員 林 裕之

令和2年1月後半より朝日山学園の分場の利用が始まりました。日によって利用人数は変化しますが、現在少しずつ進めて行っております。

分場で作業に取り組む場は、日中良く日が入りとても明るい空間です。利用者さんの中には、すぐに環境に慣れ



られた方、玄関で躊躇される方と様子は様々でした。取り組み内容では、ペットボトルリサイクル作業を中心とし、天気の良い時には、外に散歩にも出る様にしています。特に運動面では、分場を利用される方の課題として、身体の機能維持が挙げられますので、室内でも、階段の上り下りなども活動に取り入れ、下肢の健康維持、転倒しにくい体作りを行って行きたいと思います。



まだまだスタートしたばかりですが、利用者さんが楽しく元気に過ごせる場所を目指していきたいと思います。

## ～グループホームあさひから～

### 『生活の中に役割を持つこと』

グループホームあさひ 生活支援員 姉川依世

「グループホームでの役割とは何か」を考えた時、思ったのは「役割を果たす事により何を得ているか」でした。

利用者の方にして頂いている事は沢山あり、お風呂掃除や洗濯物たたみ、モップ掛け、カーテン閉め、洗濯籠運び等……。日常、または共同生活において大切な事ばかりです。



ある利用者さんとの会話ですが、「時間が勿体ない。何もしないよりは、していた方が良い」とよく言われます。その方は食器拭きを行ってくださいます。して頂く事により「学園でもお手伝いしてくれているんでしょ」「手伝って貰うとすごく助かります」等、スタッフとの会話も自然と増え「認めてもらう」事により次の作業への意欲や自分も役に立つ事が出来ている等の「自己肯定感」が芽生えるように思います。

「何もしないよりは良い」との言葉通り、他の利用者の方も館内のカーテン閉めを表情良く行えたり、モップ掛け中は唸り声が聞かれた方も、作業後から終始機嫌の良い声出しが聞かれたりと、言葉は無くとも分かる反応が見られます。



役割を果たす事で利用者の方同士の繋がりやお互いを意識した生活も少しずつ出来、タオルたたみにしても「これ〇〇さんのだから分けておくれ」との言葉や昼食で使った食器を食堂に集まり一緒に拭く等、家庭以外での生活環境で関りが出来ていると思います。

また、タオルたたみは出来ないと思っていた人が床でならたたむ事が出来たり、他の利用者の方を真似する事により出来たりと、新しい発見もありました。

役割を通じて、「やり甲斐、生き甲斐」を感じられる今後のグループホームでの共同生活に生かせたらと思います。



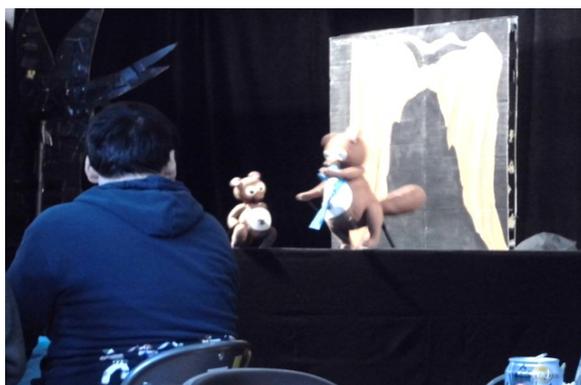
## ～行事報告～

### 『令和元年度 クリスマス会』

朝日山学園 生活支援員 中島智子

令和元年 12月23日、利用者・保護者・地域の皆様方を招待し、朝日山学園でクリスマス会を行いました。

今年は人形劇団「づくんぼ」の皆様、本格的な人形劇を披露して頂きました。大掛かりな舞台上で繰り広げられる手遊びや人形の動きに、利用者さんだけでなく来賓の方も目を輝かせてありました。また、今年も、プロレスラーのアステカさんとKINGさんをご招待させて頂き、椅子に座って簡単にできる健康体操を紹介して頂き、保護者や来賓の方々も特に熱心に取り組まれいたのが印象的でした。ゲームはお手玉投げを行っています。投げることに夢中になる方、高得点の場所を狙う方、それぞれの個性が出て応援する側も楽しく盛り上がっていました。利用者の音楽発表では、昨年4月から音楽活動の中で練習してきた「もりのくまさん」「きらきら星」を鈴を使って演奏し皆さんに聞いてもらう事で、日頃の取り組みを見て頂ける良い機会となりました。



この度クリスマス会を開催するにあたりまして、景品やお菓子などのご寄付いただきました皆様、ご参加頂いた来賓の皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願います。ありがとうございました。



## ◎寄付者ご芳名

令和元年9月～令和2年1月

岡 潤 様 ・ 鈴木 洋二 様 ・ 三木 洋子 様  
田中 洋子 様 ・ 松尾 初子 様 ・ 福島 ツル子 様  
福島 多恵子 様 ・ 上尾 央子 様 ・ 角 勲 様  
権藤 ツヤ子 様（食材） ・ 西清寺 様

上田歯科医院院長 上田 昭彦 様

医療法人野田内科設置の募金箱に募金頂いた皆様

上田歯科医院の募金箱に募金頂いた皆様



## クリスマス会

鈴木 洋二 様 ・ 廣重 新興 様 ・ 西久保 正子 様  
原口 敏子 様 ・ 桑原 美智子 様 ・ 大竹 義治 様  
本石 勇 様 ・ 岡村 國助 様 ・ 指山 清範 様  
愛甲 強 様 ・ 鶴川 高富 様 ・ 大坪 麻子 様  
福島 多恵子 様 ・ 廣瀬 耕三郎 様 ・ 内田 孝喜 様  
末藤 久美子 様 ・ 権藤 ツヤ子 様 ・ 眞田 武彦 様  
豊増 スミ子 様 ・ 橋本 イツヨ 様

原武登記測量事務所 様

株式会社トスプロ代表取締役 野田 哲郎 様

以上の皆様にご支援いただきました。ありがとうございます。

## ☆ボランティア募集しています

あさひ会では、利用者の皆さんの生活や活動を支援して頂けるボランティアの方を募集しています。詳しい内容は下記に載せています。



性別、年齢は問いません。日常のちょっとした時間を利用者の方と過ごして頂けませんか？スタッフが優しくサポートさせていただきます。

◆朝日山学園：平日/散歩の付き添い、お話相手、  
作業、食事のお世話 等々

◆GH あさひ：土日/散歩の同行、お話相手、食事、入浴のお世話  
一緒に創作活動をしたり運動の相手役 等々

(朝日山学園支援室 TEL：0942-81-5409 担当 橋口)

## ～新しい職員の紹介～

### ☆グループホームあさひ☆

○長野 晃一さん



令和元年8月に入職した長野晃一と申します。初めて経験する職種ではありますが、人として学ぶべき事の多い仕事だと思います。微力ではありますが、できる限り頑張っていく所存です。よろしくお願い致します。

### ▣編集後記

早いもので今年も3月に入り、法人全体も次年度に向けた準備を行っています。朝日山学園、GHあさひでも、課題も沢山ある中、法人の原点である「重い障がいを持つ方々の人生を支える」事を基本に据えて、共に検討を重ね、支援の実践を積み重ねています。利用者の皆さんの日々の様子が読んで頂ける皆さんに届く事を願っています。 (橋口)

9月～2月行事等【朝日山学園】

9月	6、20	ケース検討会
	12	虐待防止委員会
	13	ケース会議
	18	誕生会
	19	献立会議
	25	指導的職員研修
	27	職員会議
10月	4	ケース検討会
	10	虐待防止委員会
	11	ケース会議
	16	合同支援検討会
	18	ケース検討会 法人運営委員会
	17	献立会議
	25	職員会議
30	誕生会	
11月	1	ケース検討会
	6	中堅職員スリアップ®研修
	8	ケース会議
	12	虐待防止委員会
	13	誕生会
	14	適用力を伸ばす指導研修
	15	ケース検討会 合同支援検討会
	20	献立会議
	22	職員会議
	26	第3回施設長会
29	ケース検討会 将来構想委員会	

12月	6	ケース検討会
	11	誕生会
	12	虐待防止委員会
	13	ケース会議
	18	合同支援検討会
	19	献立会議
	23	クリスマス会
	26	将来構想委員会
	27	職員会議
	29～31	冬季休暇
1月	1～3	冬季休暇
	10	ケース会議
	14	虐待防止委員会 合同支援検討会
	15	誕生会
	17	ケース検討会
	22	献立会議
	23	指導的職員スリアップ®研修
	24	職員会議
2月	31	ケース検討会 将来構想委員会
	6	生活の場協議会
	7	ケース検討会 見学(いぶき村様)
	11	虐待防止委員会
	12	合同支援検討会
	14	ケース会議
	19	献立会議
	21	ケース検討会 将来構想委員会
	26	誕生会
	28	職員会議

❖ホームページでは写真はカラーで掲載しております。